

## 推薦入学選考Ⅰ期 国語「基礎学力調査」(一日目)

【一】 次の文章を読んで、後の問い(問一～十四)に答えなさい。

縁あって大学で教えている。専門はメディア・リテラシーとジャーナリズム。ジャーナリズムはともかくメディア・リテラシーについては、「この言葉を聞いたことがある人はいますか」と授業初日にきいても反応は鈍い。意味を知っている学生は半分もいないだろう。本来は大学で教えることではない。<sup>(1)</sup>小中学校など義務教育で教えるべきジャンルだ。

メディア・リテラシーについては辞書などでは、「メディアが発信する情報とその内容をきちんと読みとり、マスメディアの本質や影響について幅広い知識を身につけ、批判的な見方を養い、メディアそのものを創造できる能力のこと」などと説明されている。つまり批判的な接し方。もつと直截に、「メディアの虚偽を見抜くこと」と訳す人もいる。

とにかくそれが一般的な「メディア・リテラシー」の意味。ならばこの言葉から「メディア」を取る。つまり「リテラシー」一語ならば、どんな意味になるのだろうか。

答えは識字。要するに

A

だ。

<sup>(2)</sup>ここであなたは不思議に思うかもしれない。メディア・リテラシーの意味は、メディアが発信する情報に対して批判的に接すること。この場合のメディアは、当然ながら活字メディアだけに限定されていない。テレビや映画などの映像メディアもあれば、ラジオという音声メディアもある。ところがリテラシーの意味は「識字」だけ。ここに映像を「見る」と音声を「聞く」というニュアンスはまったく入っていない。

理由は単純だ。象形文字や楔形文字、ヒエログリフなどが示すように、文明のハッショウ<sup>(1)</sup>は文字と共にあった。だから読み書きを意味する「リテラシー」という言葉が誕生した。でも映像と音のメディアの歴史はとて新しい。

一八九五年、パリのキャブシューヌ街にあったグランカフェの地下一階で、リュミエール兄弟が発明したシネマトグラフという映写装置によって、世界で初めての映像の有料上映会が行われた。兄弟が経営する工場から仕事を終えた労働者たちが出てくる『工場の出口』など、とても短い（数分の）作品が何本も上映された。駅のプラットホームに機関車がやってくる『ラ・シオタ駅への列車の到着』を上映したときは、突進してくる列車の映像にパニックになった観客は、一人残らず椅子から立ち上がって会場から逃げようとしたとの [B] が残っている。なぜなら世界で初めての映像だ。観客たちに虚と実の区別などつくはずがない。

ラジオの誕生は映像から九年後。アメリカのマサチューセッツで最初の通信テストが行われ、一九二〇年にはペンシルヴァニアで商業放送が始まった。

二つの新しいメディアはあつというまに広がった。世界で初めての上映会がパリで行われた二年後には大阪で日本初の上映会が行われているし、アメリカで商業放送が始まってから五年後の一九二五年には、社団法人東京放送による日本初のラジオ放送が行われている。

もちろん日本が特別なのではない。映画とラジオという二つのメディアは、燎原の火のように世界中に広がった。当時の交通事情を考えれば、キョウウイテキ<sup>(2)</sup>な速さといえるだろう。

なぜ世界の人々は新しいメディアを歓迎したのか。この理由もとても単純。前述したように、文字の文化は人類の歴史と共にあった。でも文字を読んだり書いたりするためには、読み書きの教育を受けることが必要だ。ところが当時の世界において、文字を読み書きできる階層は圧倒的な少数派だ。だって教育は普及していない。ほとんどの人は識字能力<sup>(3)</sup>を持たない。ならば文字は [C] をなさない。

グーテンベルクが活版印刷を発明したのは十五世紀。これによって、聖書や新聞などが、大量に刷られることが可能になっ

た。でもいくら大量に印刷されたとしても、この時代の印刷物は、マスメディアには決してなれなかった。<sup>(4)</sup>

ところが映像と音のメディアは、識字能力を必要としない。教育など受けていなくても、基本的には誰だっって見ることはできるし聞くこともできる。

こうして二十世紀初頭、もう少し正確に書けば一九二〇～三〇年代、この世界に初めてのマスメディアが誕生することになる。そしてその帰結として、ファシズム（全体主義）が誕生した。

<sup>(5)</sup> あなたは不思議に思ったことはないだろうか。ファシズムという政治ケイタイがスペインやイタリア、そして日本とドイツなど同時多発的に登場するのは、やっぱり一九二〇～三〇年代だ。この時代以前に、ファシズムは歴史に登場していない。誰もが理解できるメディアが誕生したことで、特定の政治的意図のもとに、主義や思想や危機意識などを、大衆に何度も強調して刷り込むことが可能になった。つまり大規模なプロパガンダが可能になった。

でもそれは人々がメディアを理解していなかった昔の話。それにメディアの側も現在では、さすがにそこまで露骨なプロパガンダを行わないはずだ。もしあなたがそう思うのなら、僕はもうひとつの例を提示しよう。

一九九四年、アフリカのルワンダで大虐殺が行われた。フツ族によって殺害されたツチ族の犠牲者の数はおよそ一〇〇万人。国民の一〇人に一人が犠牲になった。テレビがまだ普及していない（しかも識字率も高くない）ルワンダにおいて、ラジオは唯一の国民的な娯楽だった。フツ族向けのラジオ放送局がツチ族の危険性をしきりに煽り、その帰結として「彼らを殺さないことには自分たちが殺される」との意識が D され、最終的に未曾有の虐殺が始まった。あるいは二〇一四年にクリミア併合をめぐって勃発したロシアとウクライナの紛争の際、それぞれの国のメディアはSNSなどの映像を使いながら、自分たちの正当性と相手国の残虐性を自国民に訴えた。こうして高揚した相手国への憎悪は、地域の紛争をさらにエスカレートさせる燃料になった。

視聴率や部数を上げるため、メディアは不安や恐怖を刺激する。そして人は、この刺激に最も弱い。<sup>(6)</sup> なぜなら群れで生きるからだ。

樹上生活から地上に降りてきた人類の祖先は、二足歩行を始めるのとほぼ同じころ、単独ではなく群れて生きることを選んだ。地上には天敵がたくさんいるからだ。一人ではホシヨク(4)されてしまう。でも集団なら天敵も簡単には近づかない。こうして人は群れる本能を獲得する。群れる動物は人だけではない。イワシにメダカ、スズメヤカモ、トナカイにヌー、まだまだたくさんいる。

これら群れる動物の共通項は、いつも天敵に脅えていることだ。トラやシャチやワシやタカは群れない。彼らは天敵の存在に脅える必要がないからだ。

人は身体的にはきわめて脆弱な生きものだ。筋肉は衰えたし泳ぎは下手だ。翼はないし鋭い爪や牙も進化の過程で失った。だからこそ人の危機意識は強い。いつも脅えている。まさしく小鹿のように。

ところが人は、自由に使えるようになった二本の手を使って道具を作り、やがて火薬を発明し、武器を所持し、いつしかこの地球上で最強の動物になっていた。もう天敵に脅える必要はない。でも群れる本能は遺伝子レベルで残っている。

もしも天敵に襲われたとき、群れは一方向に全速力で走る。どんな敵なのか。どれほどに危険なのか。それを考える余裕はない。ただひたすら走る。この状態になったとき、群れに帰属する個は、自分が全体と同じ行動をとっていることで安心する。だから全体と一緒に必死に走る。つまり、自ら望む同調圧力だ。<sup>(7)</sup>

エーリッヒ・フロムはこの状態を「自由からの逃走」と名づけ、ドイツ国民が民主的な手続きを経ながら強権的なナチスドイツに全権を委任する過程を考察した。人は自由が怖くなる。全体が走れば一匹も走る。そして一匹が走れば全体も走る。つまり個と全体はともに相互作用の同調圧力を持つ。こうなると他の人たちと違う動きはしづらい。群れはひとつの生きものののように動く。<sup>(8)</sup>

野生の生きものは鋭い感覚で全体の動きを察知するが、進化の過程で鋭敏な感覚を失った人類は、代わりに E を得た。だからこそ集団化が加速するとき、多くの人は指示や命令が欲しくなる。自由よりも束縛されることを無意識に望む。強い為政者を求め始める。

(森達也「群れない個が地球を救う」より)

〔問二〕 下線部(あ)～(お)にあたる漢字を、次の各群の①～⑤のなかから、それぞれ一つずつ選びなさい。

(あ)	キ いても	①	効	②	聴	③	訊	④	質	⑤	利
(い)	ハッシ ヨウ	①	翔	②	昭	③	症	④	昇	⑤	祥
(う)	キヨウ イテキ	①	偉	②	威	③	異	④	違	⑤	易
(え)	ケイ タイ	①	態	②	体	③	隊	④	帯	⑤	廷
(お)	ホシ ヨク	①	甫	②	捕	③	補	④	浦	⑤	輔

〔問二〕 傍線部(1)「小中学校など義務教育で教えるべきジャンルだ」と本文筆者が記す理由として最も適切なものを、次の

①～⑤のなかから一つ選びなさい。

- ① メディア・リテラシーは小中学生でも理解できる、とても簡単なことだから。
- ② 年齢に関係なく、現代人はメディア・リテラシーを義務として知らねばならないから。
- ③ 大学はメディア・リテラシーよりも高度なことを学ぶところだから。
- ④ 小中学生のような若い頃でないと、メディア・リテラシーは身につかないから。
- ⑤ メディア・リテラシーは人生の早い段階で身につけておくべきものだから。

〔問三〕 空欄 A 〽 E に入る最も適切なものを、次の各群の①～⑤のなかから、それぞれ一つずつ選

びなさい。

A	① 能力	② 教育	③ 接し方	④ 読み書き	⑤ 見抜くこと
B	① 寓話	② 閑話	③ 訓話	④ 逸話	⑤ 懇話
C	① 意図	② 意味	③ 意気	④ 意識	⑤ 意趣
D	① 喚起	② 想起	③ 奮起	④ 発起	⑤ 隆起
E	① 言葉	② 武器	③ 本能	④ 圧力	⑤ 自由

〔問四〕 傍線部(2)「あなたは不思議に思うかもしれない」と本文筆者が記す理由として最も適切なものを、次の①～⑤の

なかから一つ選びなさい。

- ① 識字がメディアであるのかわからないのが、はっきりしないから。
- ② メディア・リテラシーからメディアを取るこの理由がわからないから。
- ③ リテラシーと関係のないはずのテレビやラジオが、活字メディアとして限定されているから。
- ④ リテラシーは字に関係するものなのに、メディア・リテラシーは映像や音声にも関わるから。
- ⑤ 「見る」「聞く」ことには、情報に対し批判的に接する意味が含まれないと思うから。

〔問五〕 次の①～⑤のなかで、三番目に古い出来事を選びなさい。

- ① 日本初のラジオ放送
- ② マサチューセッツでの最初の通信テスト
- ③ リュミエール兄弟の上映会
- ④ 初めての商業放送
- ⑤ 大阪での日本初の上映会

〔問六〕 傍線部(3)「燎原の火のように」とあるが、その説明として最も適切なものを、次の①～⑤のなかから一つ選びなさい。

- ① 冷静ではいられないほどに熱狂的である様子。
- ② 瞬きする暇もないほどに時間が短い様子。
- ③ 誰にも止めることができないほどに勢いが盛んな様子。
- ④ 古いものをすべて無効にしていくほどに暴力的な様子。
- ⑤ 一ヶ所限定ではなく無限に広がっていく様子。

〔問七〕

傍線部(4)「マスメディアには決してなれなかった」とあるが、それはなぜか。最も適切な理由を、次の①～⑤のなかから、一つ選びなさい。

- ① この時代には教育が普及しておらず、印刷物を欲しがる人は誰一人としていなかったから。
- ② 大量に印刷されたために値段がとても安く、売ったとしても儲けが少なくなるから。
- ③ 人々は新しいメディアを歓迎し、印刷されたものには関心を示さなかったから。
- ④ 文字を書いたり読んだりするには時間がかかるが、当時の交通事情がそれを許さなかったから。
- ⑤ せっかく大量に印刷されたとしても、それを読むことができる人は圧倒的少数派だったから。

〔問八〕

傍線部(5)「あなたは不思議に思ったことはないだろうか」とあるが、何を不思議に思ったことはないかと本文筆者は問うのか。最も適切なものを、次の①～⑤のなかから一つ選びなさい。

- ① マスメディアに先立ってファシズムが誕生していること。
- ② ファシズムが全体主義という意味を持つこと。
- ③ 場所が日本であるのにファシズムという外国語が用いられていること。
- ④ ヨーロッパと日本という遠く離れた場所ではほぼ同じ時期にファシズムが登場していること。
- ⑤ マスメディアが20世紀初めに同時多発的に歴史に登場していること。



〔問九〕 傍線部(6)「人は、この刺激に最も弱い」とあるが、その理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一

つ選びなさい。

- ① 人は群れで生きる以外にないため、群れのなかで嫌われるかもしれないと、いつも不安に思っているから。
- ② 人は群れで生きざるをえないが、群れのなかの人々に合わせると個性を発揮できないと不安になるから。
- ③ 脆弱な生きものである人間は、群れの力が弱くなってしまつて身を守れなくなることを恐怖しているから。
- ④ 群れをつくつて群れのなかで生きることを選んだ人間は、そうしなければならぬほどに脆弱であったから。
- ⑤ 常に不安を感じている人々は、メディアに自身の脆弱さを指摘されねば、慢心して群れを大切にしないから。

〔問十〕 傍線部(7)「自ら望む同調圧力」とは何であるか。最も適切なものを、次の①～⑤のなかから一つ選びなさい。

- ① 自分から進んで全体の動きに合わせてようとすること。
- ② 群れ全体が個に対して同じ行動をとるよう求めること。
- ③ 自分から進んで群れに押しつぶされることを望むこと。
- ④ 群れに帰属する個々が互いに励まし合おうとすること。
- ⑤ 個と全体が息を合わせて同一方向に走ろうとすること。

〔問十二〕 傍線部(8)「こうなると他の人たちと違う動きはしづらい」とあるが、それはなぜか。最も適切なものを、次の①

～⑤のなかから一つ選びなさい。

- ① 他の人たちと違う動きをすれば、孤立して不安になることがわかっていいるから。
- ② 他の人たちと違う動きをすれば、自分以外の大勢を見殺しにすることになるから。
- ③ 他の人たちと違う動きをすれば、個と全体のバランスを崩して民主制を危うくするから。
- ④ 他の人たちと違う動きをすれば、目立ってしまったって真っ先に天敵に襲われてしまうから。
- ⑤ 他の人たちと違う動きをすれば、自由が怖くなって民主的な手続きを経ることができないから。

〔問十二〕 傍線部(9)「多くの人は指示や命令が欲しくなる」とあるが、それはなぜか。最も適切なものを、次の①～⑤の

なかから一つ選びなさい。

- ① 指示や命令がないと、個は全体に同調する本能を発揮できないから。
- ② 様々な指示を聞いた上でないと、どれが一番正しいかを判断できないから。
- ③ 集団化が加速すれば、指示や命令をする代表者を選ぶ選挙が実施されるから。
- ④ 人々への指示や命令は、映像や音声のメディアで伝えることができないから。
- ⑤ 鋭い感覚をなくした人間は、指示や命令がなければ全体として動けないから。

〔問十三〕 「メディア」ではないものを、次の①～⑤のなかから一つ選びなさい。

- ① テレビ
- ② 映画
- ③ ヒエログリフ
- ④ 活版印刷
- ⑤ ラジオ

〔問十四〕 本文の内容と一致するものを、次の①～⑤のなかから一つ選びなさい。

- ① メディアは常に虚偽の情報を発信するので、批判的に接する必要がある。
- ② 映画はラジオに比べると商業ベースに乗らず、普及するまでに時間がかかった。
- ③ ドイツ国民は強権的なナチスドイツに全権を委任して、一つの全体になった。
- ④ ルワンダ人口の約10%はツチ族の人々であった。
- ⑤ 最強の動物になった人間が群れるのは、本能的に危険を察知したときである。

【二】 次の文章を読んで、後の問い（問一〜十三）に答えなさい。

一九二六（大正十五）年三月、花巻農学校を退職した三十歳の賢治は、花巻川口町下根子の宮澤家別宅で独居自炊の生活に入った。別宅は北上川の流れの見える高台の上にあつて、周囲は松の林である。崖下から北上川の岸へ至る沖積地を拓いた二反四畝（二十四アール）の砂畑に、白菜、バレイショ<sup>(a)</sup>、トマト、花キャベツ、チューリップなどをつくりながら、賢治は、農学校の教え子二十余名とレコードコンサートや楽器の練習会をひらいた。いってみれば、羅須地人協会（以下、協会と略称する）<sup>(1)</sup>はまず第一に農民のための娯楽クラブのようなものだった。ちなみに賢治はモーツァルトにあまり関心がなく、ベートーベンを聴くのが大好きだったそうである。また、彼が受け持った楽器はオルガンとセロで、セロの値段は百八十円だった。百八十円が安いか高いかについては、農学校をやめるころの給料が百十円だったことや、当時、東北の農村を徘徊<sup>(1)</sup>していた人買いたちが娘一人を百二十円前後で買上げていたことなどから見当をつけていたきたい。楽器練習会で最初に取り上げた曲は「太湖船」<sup>(2)</sup>だったという証言がある。筆者も中学生のころ孤児院のハーモニカバンドでこの曲を吹いたが、その体験から賢治たちの技量を推察すれば、下手も大下手ということになるだろう。

協会はまた塾でもあつた。賢治は、近くの農家の青年たちに稲作法や基礎的な科学知識を説き、農民は芸術家でなければならぬと熱弁を I、全世界の農民と花巻の農民とが直接につながる日のためにエスペラント語を教えた。加えて協会は農事相談所の本部ともなつた。賢治は、附近の町や村に肥料の相談所をもうけて稲作指導や肥料設計にあたり、土壤改良の相談にも応じた。協会開設の翌年、一九二七（昭和二）年の四月から六月までの三カ月間に、賢治が二千枚の肥料設計書を書いたという記録ものこっている。肥料設計は面倒な仕事である。まず農民に二十三項目にもわたる質問を呈する。口の重い農民から答を聞き出し、必要があれば問題の田畑まで出かけて行って土質その他を調べ、その上で一枚平均八百字の肥料シヨ<sup>(b)</sup>ホウを書く。四百字詰原稿用紙に換算すれば四千枚。それを百日足らずで書いたことになる。しかも盛岡高等農林（現在の岩手大学農学部）出身のこの肥料設計家は一銭の謝礼も受け取ろうとしなかった。天候不順で収穫の少ない秋な

どには、協会にねじ込む農民もいた。天候不順を、肥料設計のミスにすりかえて、金を払えと仄めかす。周知のように、宮澤一族は花巻を代表する名家である。父の政次郎は町会議員であり、地租、営業税、所得税など合せて三百七十七円（一九一六年）の多額納税者である。

## II

その長男の賢治はかなり風変わりなところはあられるけれど、シヨセンは気の弱いお坊っちゃん、強く出れば金をだすだろうと、見縊みくびってかかる手合いもなくはなかった。

さらに協会は農民たちの物々交換所たらんと志していた。賢治が配布した青インクの謄写とうしゃばん版刷りの案内状には次のような一行が見えている。「製作品、種しゆ苗等交換売買の予約、持寄もちよ競売……本、絵葉書、楽器、レコード、農具、不要のもの何でも出して下さい」

<sup>(4)</sup>このように、賢治は松林の中の二階家と自分の全能力とを投げ出して、農村の灰色の悲しい日常を、なにかパツと明るいものにしてようと夢見た。政治改革や経済改革はさしあたり必要ではないし、どうせそういう諸改革は最後のつけを農村にかぶせてくるにちがいない。いま、ほんとうに必要なのは、農民ひとりひとりの意識改革である。ひとりひとりが考え方を換え、勉強をして賢くなり、仲間と信じ合うこと。それができれば農村は今日からでも「楽土らくど」になる。協会は、農民が考え方を換えるためのたのしい根拠地であり、陽気な溶鉱炉ようこうろである。<sup>(5)</sup>これが賢治の、協会設立のもっとも強い動機だったと筆者は信じる。自分をも含めて、「どうか人びとが明るく生きて行くことができますように」という賢治の祈りは、この時期の彼の作品のいたるところに溢れ返っており、その祈りが読む者を励ます。賢治の日本語は独特であり、なおかつ美しい。だがしかし独特で美しいだけでは、人は五回も六回を読み返しはしない。たとえば、詩「稲作挿話」(作品第一〇八二番「あすこの田はねえ」)を十回も二十回も読むのは、それが詩としてすぐれているばかりではなく、祈禱文としても最高級のものだからである。言いかえればわたしたちは作品を読みながら、「……雲からも風からも透明な力がみんなにうつれ……」と祈っている。読者にこんなことをさせてしまう作家は稀である。<sup>(6)</sup>

いくらなんでも賢治を持ち上げすぎではないか、賢治を聖者視するのはもうはやらないよという声がどこからかしてきそうなので、あわててつけ加えると、筆者はギキョク(d)「イーハトーボの劇列車」で、賢治をごく普通の人間として描いた。

だから今回は礼賛する側に回っているのである。

ときに、協会時代の賢治は、農民になりきろうとしたようで、それは彼の食事にも現われている。めしは林の中の竈かまどで六、七食分を一度に炊いた。竈の火加減を見ながらエスペラントの勉強に打ち込んでいたという。腐っではいけないから、めしを箆ざるに入れ、梅干しを載せて、天然の冷蔵庫である井戸の中へ吊り下げておく。めしのお菜は塩、うんと奢ちかったときは野菜スープ。「人間はなぜ生きものの生命で身を養わなければならぬのか。他を侵さずに生きて行くことはできないのか」と考えていたから肉も魚もたべなかった。むろん酒ものもない。ただしサイダーはよくのんだ。

畑でとれたものはリアカーに積んで町へ売りに行った。花キャベツとチューリップは評判を

### III

。どちらも花巻

の人たちが初めて見るものだったからである。外国から種子を取り寄せて作ったのだ。リアカーも珍しい。花巻にまだ二十台もない。賢治は服装も極めていた。カーキ色の作業服をびしっと着込んでいる。これも花巻地方の農民には珍しいこしらえである。賢治は衣装に凝こる質で、協会でもさまざまな農民服を考案した。ルパシカに革帽子を協会の制服にしようかと言い出したこともあったらしい。

花キャベツだのチューリップだのを積んだリアカーをひくぱりつとした作業服の農民、まさに賢治童話の登場人物ではないか。その彼が相次ぐ凶作で疲れ切った、陰気な町を行く……。このへんが賢治の生活感覚の滑稽なところだ。それに加えて彼は売れ残りをただで配って引き揚げる。農民は作物をただでくれてやったりはしない。だいたいそんな余裕はないし、もしあったとしてもそのときは堆肥にするにきまっている。ハイカラ好きの賢治、りっぱな詩や童話を書く賢治、<sup>(e)</sup>ケイモウ家の賢治、宗教者の賢治、まさに賢治は輝く多面体である。しかしその賢治も農民にはなり切れなかった。いくら農民の仮面をつけても、ハイカラ好きの部分がその仮面を引っ剥むしてしまふ。粗食がからだを弱らせる、協会の活動を社会主義運動の変種と見て官憲かんけんの目が光り出す、まともな仕事につくようになんか強制的な父のたのみ、協会を閉じざるを得なくなつた理由はいくつもあるが、最大の理由は、救おうと思つた農民から協会が白い目で見られたことにあった。こうして協会の活動は足かけ三年でおわりを

### IV

。

賢治の寿命はあと五年しかのこっていない。だが、彼は息を引き取る瞬間まで祈りつづけるだろう、「どうか人びとが明るく生きて行くことができますように」と。賢治のこの祈りは、いまも私たちを励まし、そして振るい立たせずにはおかない。

(井上ひさし「賢治の祈り」より)

〔問一〕 下線部(a)～(e)にあたる漢字を含む熟語を、次の各群の①～⑤のなかから、それぞれ一つずつ選びなさい。

(a)	バ レ イ シ ョ	①	励行	②	係累	③	答礼	④	呼鈴	⑤	信頼
(b)	シ ョ ホ ウ	①	行方	②	法被	③	官報	④	包撰	⑤	封印
(c)	シ ョ セ ン	①	端緒	②	初戦	③	庶民	④	空疎	⑤	所領
(d)	ギ キ ョ ク	①	正義	②	特技	③	儀軌	④	擬態	⑤	戲作
(e)	ケ イ モ ウ	①	默契	②	敬意	③	傾聴	④	拝啓	⑤	系統

〔問二〕 傍線部(1)「まず第一に」とあるが、「第二」以下のものとして適切ではないものを、次の①～⑤のなかから一つ選びなさい。

- |   |        |   |       |
|---|--------|---|-------|
| ① | 塾      | ② | 農事相談所 |
| ③ | 物々交換所  | ④ | 根拠地   |
| ⑤ | 社会主義運動 |   |       |



〔問三〕 二重傍線部(ア)～(ウ)の意味として最も適切なものを、次の各群のなかから、それぞれ一つずつ選びなさい。

(ア) ちなみに ① ついでにいえば ② たとえるならば ③ いうまでもなく

④ あえていえば ⑤ じつをいえば

(イ) 徘徊 ① すすぎ引き下がること ② うろろうろ歩き回ること

③ あれこれ物色すること ④ きびきび活動すること

⑤ ぞくぞくと詰めかけること

(ウ) 奢った ① 無理をした ② 配慮した ③ 贅沢をした

④ 手間をかけた ⑤ 羽目を外した

〔問四〕 傍線部(2)「証言がある」とあるが、ここからわかることとして最も適切なものを、次の①～⑤のなかから一つ選

びなさい。

① 最初に取り上げられた曲が何であったかについて、厳しい調査が行われた。

② 最初に取り上げられた曲が何であったかについて、記録が残されていない。

③ 賢治の教え子が覚えていたおかげで、最初に取り上げられた曲が何であったかが判明した。

④ 最初に取り上げられた曲が何であったかについて、多くの人の記憶が一致している。

⑤ 賢治の教え子たちの誰もが、最初に取り上げられた曲が何であったかを覚えていない。

〔問五〕 空欄 

I
---

}

IV
----

 に入る最も適切なものを、次の各群の①～⑤のなかから、それぞれ一つずつ選

びなさい。

I	① こがし	② つくり	③ うたい	④ つくし	⑤ ふるい
II	① しかも	② やはり	③ たぶん	④ せめて	⑤ かねて
III	① 呼んだ	② 響いた	③ 跳んだ	④ 馳せた	⑤ 表した
IV	① 告げる	② 謳う	③ 奏でる	④ 唱える	⑤ 指示する

〔問六〕 傍線部(3)「農民は芸術家でなければならぬ」とあるが、賢治がこう考えた理由として最も適切なものを、次の①～

⑤のなかから一つ選びなさい。

- ① 芸術を理解する農民に、賢治自身がなりたかったから。
- ② 芸術活動を楽しむ心を持てば、農作業も楽しく行えるから。
- ③ 芸術は様々な農民を、一つにする力を持っているから。
- ④ 芸術活動で農民が収益を上げ、豊かになることができるから。
- ⑤ 芸術は教養に乏しい農民を科学的な存在に変えることができるから。

〔問七〕 傍線部(4)「このように」とあるが、それが指示しているものとして適切ではないものを、次の①～⑤のなかから

一つ選びなさい。

- ① 農学校の教え子たちとレコードコンサートや楽器練習会をひらいていたこと。
- ② 近くの農家の青年たちに稲作法や基礎的な科学知識を説いていたこと。
- ③ 一銭の謝礼も受け取らず、たった三ヶ月の間に二千枚の肥料設計書を書いたこと。
- ④ 天候不順で収穫の少ない秋に、多額の納税をして農民たちの生活を支えようとしたこと。
- ⑤ 製作品や本、楽器をはじめとした物品を交換し合う場所として宮澤家別宅を提供したこと。

〔問八〕 傍線部(5)「陽気な溶鉱炉」は、ここではどのようなものと考えられているか。最も適切なものを、次の①～⑤の

なかから一つ選びなさい。

- ① それぞれに違う人々が音楽という共通の趣味を楽しむ場所。
- ② 楽土を建設するために必要な鉄材などの資材を作る場所。
- ③ みんなで明るく生きて行くための一体感をつくり出す場所。
- ④ 凶作が続いた場合の生活費を、製鉄という農業以外の仕事で得る場所。
- ⑤ 火傷をするなどの危険を顧みず、熱意をもって共に働くところ。

〔問九〕 傍線部(6)「こんなこと」とあるが、その内容として最も適切なものを、次の①～⑤のなかから一つ選びなさい。

- ① 十回も二十回も詩を評価させること。
- ② 明るく生きて行こうと決意させること。
- ③ 「透明な力がみんなにうつれ…」と祈らせること。
- ④ 詩の素晴らしさを読む人に実感させること。
- ⑤ 賢治の詩をまねて詩作させること。

〔問十〕 傍線部(7)「農民にはなり切れなかった」とあるが、それはなぜか。最も適切なものを、次の①～⑤のなかから一つ選びなさい。

- ① 凶作が相次いで疲れ切った町の人々に賢治の作った作物は売れず、経済的に立ちゆかなくなったから。
- ② 農民として農事に専念できるほどの体力を、粗食を続ける賢治は持つことができなかったから。
- ③ 花キャベツやチューリップを賢治は作っていたが、一人の農民を同じものを作ろうとはしなかったから。
- ④ 農民のために行くと思って行ってきた賢治の活動を、当の農民たちは自分たちに無関係なものを見ていたから。
- ⑤ 農民が明るく生きて行けるようにと祈りをこめた賢治の詩や童話を、農民は理解できなかったから。

〔問十二〕 賢治は花巻の農民に何を期待したのか。最も適切なものを、次の①～⑤のなかから一つ選びなさい。

- ① 世界の農民同士がエスペラントを用い、世界的に活躍すること。
- ② 凶作に疲れ切った農民を救う人物として、賢治を尊敬すること。
- ③ 明るい外国風のものを取り入れて、ハイカラになること。
- ④ 一人ひとりが考え方を変えて、楽土建設に向けて協力し合うこと。
- ⑤ 貧しさに耐えられる頑健な身体と精神を身につけること。

〔問十二〕 本文の内容と合致するものを、次の①～⑤のなかから一つ選びなさい。

- ① 収穫の少なかった農民のなかには、損害賠償をしろと声高に賢治に訴えるものもいた。
- ② 賢治は生きものの生命で身を養うことに疑問を感じていたが、野菜を食べないわけではなかった。
- ③ 賢治の実家も貧しかったが、セロの購入費は彼にとって高いものとは考えられていなかった。
- ④ 農民になりきろうとした賢治は、結局はすべての農民から批判されて、協会を閉じた。
- ⑤ 賢治が生涯を終えるまで続けた祈りによって、私たちは明るく生きて行けるのである。

〔問十三〕 宮沢賢治の作品ではないものを、次の①～⑤のなかから一つ選びなさい。

- ① 『よだかの星』
- ② 『春と修羅』
- ③ 『ゼロ弾きのゴーシュ』
- ④ 『オツベルと象』
- ⑤ 『幸せハンス』

# 【解答例】

入試年度 : 2019  
入試種別 : 推薦入学選考  
I期 1日目  
科目 : 国語

問No.	解答番号
1	3
2	5
3	3
4	1
5	2
6	5
7	4
8	4
9	2
10	1
11	1
12	4
13	2
14	3
15	5
16	4
17	4
18	1
19	1
20	5
21	4
22	3
23	4
24	1
25	5

問No.	解答番号
26	5
27	4
28	5
29	1
30	2
31	3
32	2
33	5
34	1
35	1
36	1
37	3
38	4
39	3
40	3
41	4
42	4
43	2
44	5
45	—
46	—
47	—
48	—
49	—
50	—